**季節性インフルエンザ感染症**

**●発熱早期の迅速検査はオススメしません。**

**●抗インフルエンザ薬は発熱48時間以内の投与により発熱期間を1日程度短縮します。**

**●かつて話題になったタミフルと異常行動との間に因果関係はない事が分かっています。タミフルは新生児・乳児でも使用できます。**

**●最も注意しなくてはならない合併症として脳症があります**

**●生後6か月からインフルエンザ予防接種を行うことを推奨します。予防接種は発症予防・重症化予防に効果が確認されております。**

**インフルエンザウイルスとは？**

インフルエンザウイルスは、A型、B型、C型に大きく分類されます。そのうちヒトに流行を起こすのはA型とB型です。A型・B型インフルエンザの流行には季節性があり、例年12月～3月に流行し、咳・くしゃみなどの飛沫感染や汚染された物を介した接触感染により短期間で多くの人に感染が拡がります。例年の季節性インフルエンザの感染者数は国内で推定約1,000万人とされます。

**症状、注意すべき合併症は？**

症状として38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感に加え、普通の風邪同様に咽頭痛、鼻汁、咳などの症状を認めます。最も注意しなくてはならない合併症としてインフルエンザ脳症があります。インフルエンザ脳症は死亡率が約30％、また25％に後遺症を残すとても重篤な合併症です。インフルエンザ脳症の初期症状は①けいれん ②意識障害　③異常行動・言動があります。しかし小児では発熱時は普段よりもボーっとしたり、またインフルエンザ脳症の異常行動・言動と熱せん妄の区別が難しいことがあります。意識状態が悪い時、けいれんした時、異常行動・言動を認める際は直ちに病院に相談・受診をしましょう。

**検査・診断は？**

インフルエンザは抗原検査により診断するのが一般的です。インフルエンザ感染直後はウイルス量が少ないため、本当はインフルエンザに感染しているにも関わらず迅速検査で陰性（偽陰性）と出てしまう可能性が高いため、発熱早期の迅速検査はオススメしません。発熱12-24時間程度で迅速検査で検出可能なウイルス量まで増殖するとされ、したがって発熱後24時間経過したタイミングでの迅速検査を行うのがオススメです。

**治療は？**

乳幼児や基礎疾患があるなど、重症化のリスクが高いお子さんは抗インフルエンザ薬の投与が推奨されております。しかし多くは自然軽快する感染症のため、抗インフルエンザ薬の投与は必須ではありません。自然に治すには自身の免疫が重要となりますので、食事・水分摂取、睡眠で体を休めることが大切です。

現在小児に使用可能な抗インフルエンザ薬は5種類あり剤型も様々です。年齢に応じて適宜選択させていただきます。抗インフルエンザ薬はインフルエンザウイルスをやっつける薬ではなく、体内での増殖を抑える薬であるため発熱48時間以内（ウイルスが増えきる前）に投与することが望ましいとされます。発熱48時間以内の投与により発熱期間を1日程度短縮する効果はありますが、入院予防効果や重症化予防効果は明らかになっておりません。

**予防方法は？**

インフルエンザは飛沫感染・接触感染により感染をひろげます。手洗い、アルコール消毒、うがい、マスク着用などの咳エチケットが予防につながります。またインフルエンザに任意接種にはなりますがワクチンが存在します。接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、インフルエンザの発症予防・重症化予防に効果があるとされます。また現在は生後6か月以降の乳児から接種を行うことが推奨されております。

**その他**

**●いつから集団生活にもどれるの？**

保育園に通うお子さんは『発症してから5日経過し、かつ解熱してから3日経過してから』

小学生以降のお子さんは『発症してか5日経過し、かつ解熱してから2日経過してから』

上記になります。わかりづらい部分もありますので、当院では診断の際には書面で分かりやすくご説明させていただきます。

**●インフルエンザ脳症の異常行動・言動って具体的にどんなもの？**

1. 両親が分からない、いない人をいると言う（人を正しく認識できない）
2. 自分の手を噛むなど、食べ物とそうでないものの区別ができない
3. アニメのキャラクター・像・ライオンなどが見えるなどの幻視・幻覚症状を訴える
4. 意味不明な言葉を発する、呂律がまわらない
5. おびえ、恐怖、恐怖感の訴え・表情
6. 急に怒りだす、泣きだす、大声で歌いだす

上記が例として挙げられます。熱せん妄であれば短時間、または一時的とされますが、判断はとても難しいため異常行動・言動と思われる症状の際は受診をオススメします。

**●タミフルと異常行動との関連は？**

かつてタミフルにより異常行動との関連が指摘され10歳未満の小児への使用が禁止されておりました。しかしながら大規模研究からタミフルと異常行動との間に因果関係はないことが分かっており、タミフルは新生児・乳児でも使用可能となっております。

**●予防接種は打った方がいいですか？**

インフルエンザワクチンの接種は心からオススメします。インフルエンザワクチンはインフルエンザ発症予防・重症化予防効果が確認されております。前述の通りインフルエンザの合併症であるインフルエンザ脳症はとても怖い合併症です。2019-2020シーズンでのインフルエンザ脳症は134例、うち10例が死亡しております。大切なお子さんを守るうえでもお子さんだけでなく家族全員のインフルエンザワクチンの接種をオススメします。